

青森県経済統計報告

平成 30 年 11 月 6 日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口(平成 30 年 10 月 1 日現在)..... 1

県 人 口 1,262,823 人 (対前月 900 人減少)

自然動態 709 人減少 (出生者数 642 人、死亡者数 1,351 人)
社会動態 191 人減少 (転入者数 1,210 人、転出者数 1,401 人)

2 本県の経済動向 (平成 30 年 8 月・9 月の経済指標を中心として)

(1) 経済概況

本県経済は、緩やかに回復している。

景況感(青森県景気ウォッチャー調査)をみると、現状判断DIは44.3と、3期連続で50を下回った。先行き判断DIは46.0と、2期ぶりに50を下回った。

(2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・平成 30 年 8 月の青森県鉱工業生産指数(平成 22 年=100)は、季節調整 ... 2
済指数が 108.4 で、前月比 0.1%の上昇となり、2 カ月ぶりに前月を上
回った。また、原指数は 103.6 で、前年同月比 3.5%の低下となり、2
カ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-2) 雇用労働 ・平成 30 年 8 月の定期給与は 222,834 円で前年同月比 1.9%減となった。 ... 3
総実労働時間は 152.6 時間で前年同月比 0.4%増、所定外労働時間は
10.6 時間で前年同月比 8.6%減となった。
・平成 30 年 9 月の有効求人倍率(季節調整値)は 1.28 倍で、前月及び
前々月と同水準となった。
- (2-3) 物 価 平成 30 年 9 月の青森市消費者物価指数(平成 27 年=100)は、総合指数が ... 5
102.1 となり、前月比 0.1%の上昇、前年同月比 1.7%の上昇となった。
また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は 101.7 となり、前月と
同水準、前年同月比 0.2%の上昇となった。
- (2-4) 個人消費 ・平成 30 年 9 月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが 131 億円 ... 6
で前年同月比 2.0%増となり、3 カ月ぶりに前年同月を上回った。また、
既存店ベースでも前年同月比 2.0%増となり、3 カ月ぶりに前年同月を上
回った。
・平成 30 年 9 月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出数は 4,128
台で、前年同月比 5.2%減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。
・平成 30 年 9 月の観光入込客数は、主な観光施設が 899 千人で前年同月
比 4.4%減となり、3 カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施
設は 148 千人で前年同月比 3.9%減となり、5 カ月連続で前年同月を下回
った。
- (2-5) 建 設 ・平成 30 年 9 月の新設住宅着工戸数は 676 戸で、前年同月比 2.6%減と ... 7
なり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。
・平成 30 年 9 月の公共工事請負額は 202 億 3,900 万円で前年同月比 2.0%
減となり、3 カ月ぶりに前年同月を下回った。
- (2-6) 企業倒産 平成 30 年 9 月の企業倒産は、件数は 3 件で前年同月比 50.0%増となっ ... 8
た。負債総額は 47 億 8,800 万円で前年同月比 13580.0%増となった。

(3) 景気動向指数CI (平成 30 年 8 月分) 9

先行指数 122.0 (前月を 0.3 ポイント上回り、5 カ月ぶりに上昇した)
一致指数 163.1 (前月を 1.0 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した)
遅行指数 122.6 (前月を 0.5 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査 (平成 30 年 10 月期) 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断DI ... 44.3 (前期比 3.5 ポイント減、3 期連続で 50 を下回る)
3 カ月後の景気の先行き判断DI 46.0 (前期比 5.0 ポイント減、2 期ぶりで 50 を下回る)

1 青森県の推計人口（平成30年10月1日現在）

【概 況】

平成30年10月1日現在の本県推計人口は、1,262,823人で、前月に比べ900人の減少となった。

○自然動態

出生者数が642人、死亡者数が1,351人で、709人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,210人、転出者数が1,401人で、191人の減少となった。

総人口の推移

（単位：人）

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数	出生者数	死亡者数	社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
昭 45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10.1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
29.10.1	1,278,581	600,560	678,021	-0.033%	-416	-565	721	1,286	149	1,578	1,429
29.11.1	1,277,949	600,252	677,697	-0.049%	-632	-790	712	1,502	158	1,455	1,297
29.12.1	1,277,086	599,949	677,137	-0.068%	-863	-793	649	1,442	-70	974	1,044
30. 1. 1	1,276,120	599,503	676,617	-0.076%	-966	-831	674	1,505	-135	943	1,078
30. 2. 1	1,274,940	598,945	675,995	-0.092%	-1,180	-1,062	708	1,770	-118	973	1,091
30. 3. 1	1,273,573	598,360	675,213	-0.107%	-1,367	-940	626	1,566	-427	962	1,389
30. 4. 1	1,266,893	594,944	671,949	-0.525%	-6,680	-1,003	617	1,620	-5,677	3,686	9,363
30. 5. 1	1,266,710	595,090	671,620	-0.014%	-183	-819	586	1,405	636	3,392	2,756
30. 6. 1	1,265,855	594,603	671,252	-0.067%	-855	-811	717	1,528	-44	1,369	1,413
30. 7. 1	1,264,956	594,145	670,811	-0.071%	-899	-737	624	1,361	-162	1,109	1,271
30. 8. 1	1,264,206	593,839	670,367	-0.059%	-750	-732	660	1,392	-18	1,645	1,663
30. 9. 1	1,263,723	593,739	669,984	-0.038%	-483	-719	728	1,447	236	1,840	1,604
30.10.1	1,262,823	593,293	669,530	-0.071%	-900	-709	642	1,351	-191	1,210	1,401

9 月中の人口動態の推移

（単位：人）

	年月	H20.9	21.9	22.9	23.9	24.9	25.9	26.9	27.9	28.9	29.9	30.9
自然 動態	出生者数	905	807	810	781	736	750	831	736	742	721	642
	死亡者数	1,167	1,219	1,297	1,224	1,181	1,273	1,434	1,328	1,336	1,286	1,351
	自然増減数	-262	-412	-487	-443	-445	-523	-603	-592	-594	-565	-709
社会 動態	県外からの 転入者数	1,688	1,538	1,571	1,474	1,382	1,563	1,528	1,521	1,478	1,578	1,210
	県外への 転出者数	1,828	1,678	1,493	1,584	1,491	1,498	1,491	1,622	1,412	1,429	1,401
	社会増減数	-140	-140	78	-110	-109	65	37	-101	66	149	-191
増減数計		-402	-552	-409	-553	-554	-458	-566	-693	-528	-416	-900

※ 1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。

※ 2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※ 3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※ 4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

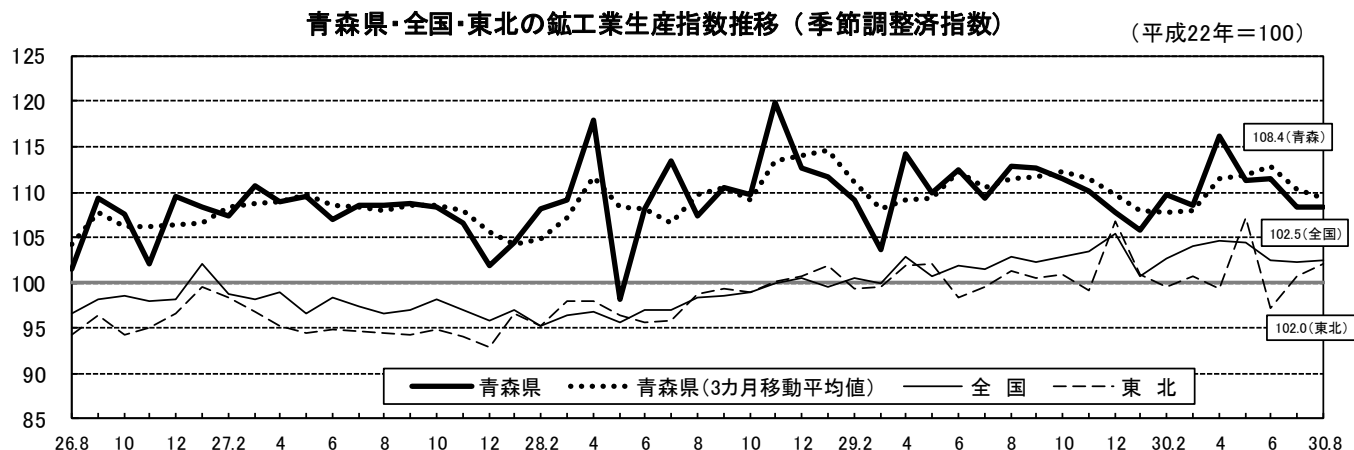
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 生産動向

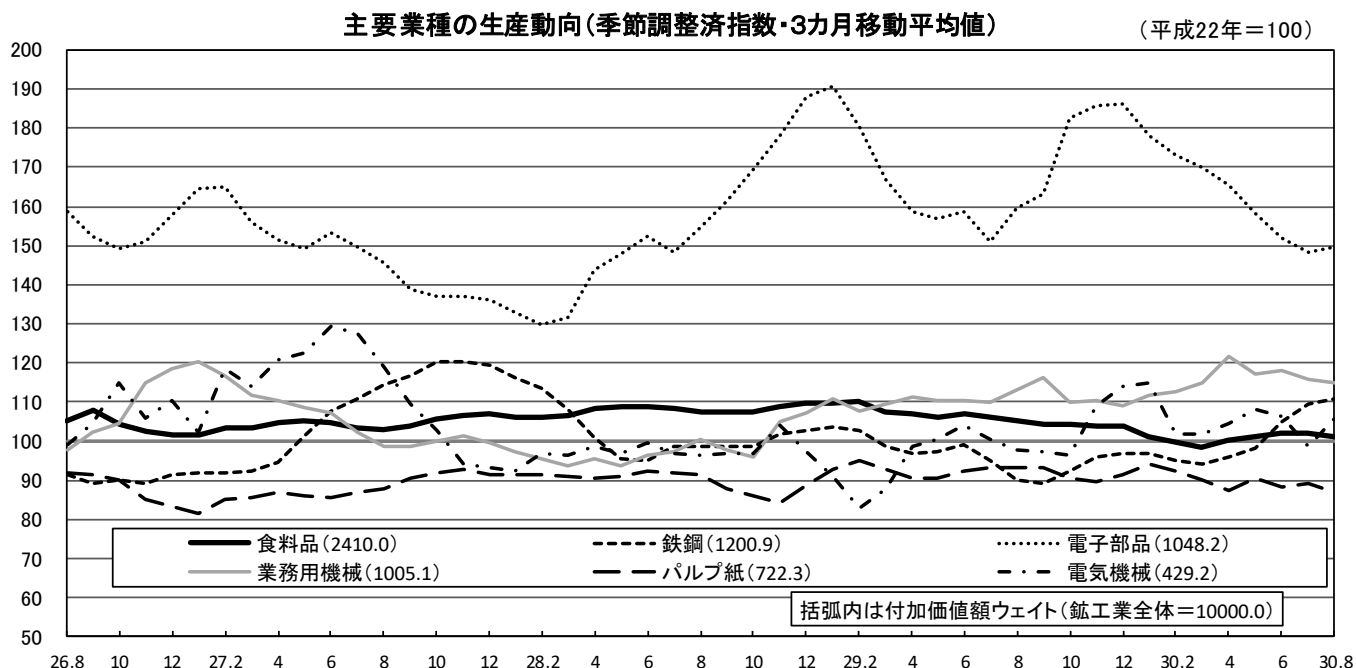
平成30年8月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が108.4で、前月比0.1%の上昇となり、2カ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は103.6で、前年同月比3.5%の低下となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、生産用機械工業、電気機械工業、電子部品・デバイス工業などが上昇に寄与した一方、化学工業、鉄鋼業、輸送機械工業などが低下し、鉱工業全体では0.1%の上昇となった。



◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 0.1%

プ ラ ス			マ イ ナ ス		
業 種	前月比(%)	寄与率(%)	業 種	前月比(%)	寄与率(%)
生産用機械工業	693.1	272.2	化学工業	-90.4	-234.1
電気機械工業	31.1	71.0	鉄鋼業	-7.9	-65.7
電子部品・デバイス工業	5.7	52.9	輸送機械工業	-23.1	-65.0
金属製品工業	10.8	40.0	食料品工業	-4.0	-60.1
はん用機械工業	103.1	19.5	業務用機械工業	-6.5	-45.8



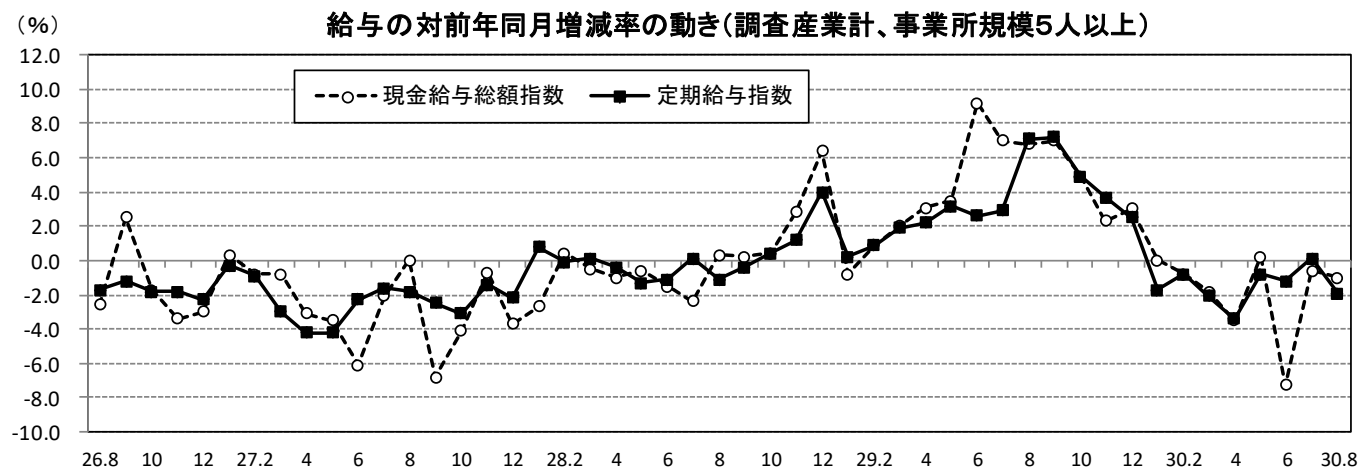
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

平成30年8月の定期給与は222,834円で、定期給与指数（平成27年＝100）では103.1となり、前年同月比1.9%減と2カ月ぶりの減（現金給与総額242,868円、現金給与総額指数96.8、前年同月比1.0%減）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は84.8となった。

総実労働時間は152.6時間で、総実労働時間指数は98.7となり、前年同月比0.4%増と3カ月ぶりの増となった。このうち、所定外労働時間は10.6時間で、所定外労働時間指数は92.2となり、前年同月比8.6%減と7カ月連続の減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

給与及び労働時間の全国との比較(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実 数		指数(H27=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	242,868 円	276,123 円	96.8	88.1	-1.0 %	0.8 %
定 期 給 与	222,834 円	262,846 円	103.1	101.4	-1.9 %	1.3 %
特 別 給 与	20,034 円	13,277 円	—	—	—	-8.2 %
総実労働時間	152.6 時間	140.0 時間	98.7	96.9	0.4 %	0.6 %
所定内労働時間	142.0 時間	129.9 時間	99.2	97.3	1.1 %	0.7 %
所定外労働時間	10.6 時間	10.1 時間	92.2	91.8	-8.6 %	-1.9 %

(注)1.「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。

2.「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。

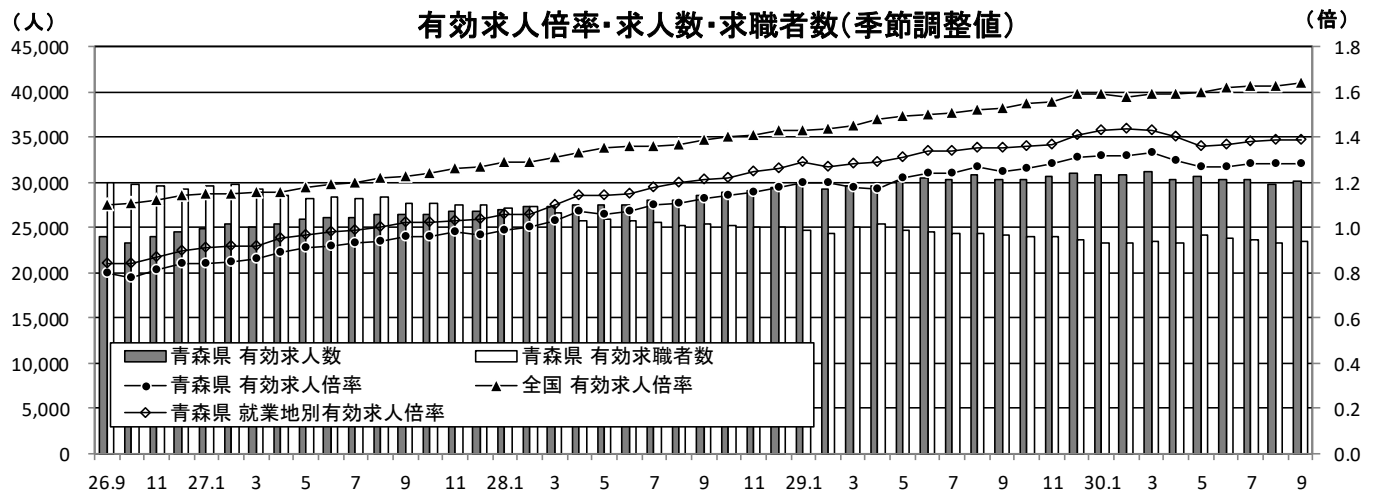
3.「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。

4.「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

(2-2-2) 有効求人倍率

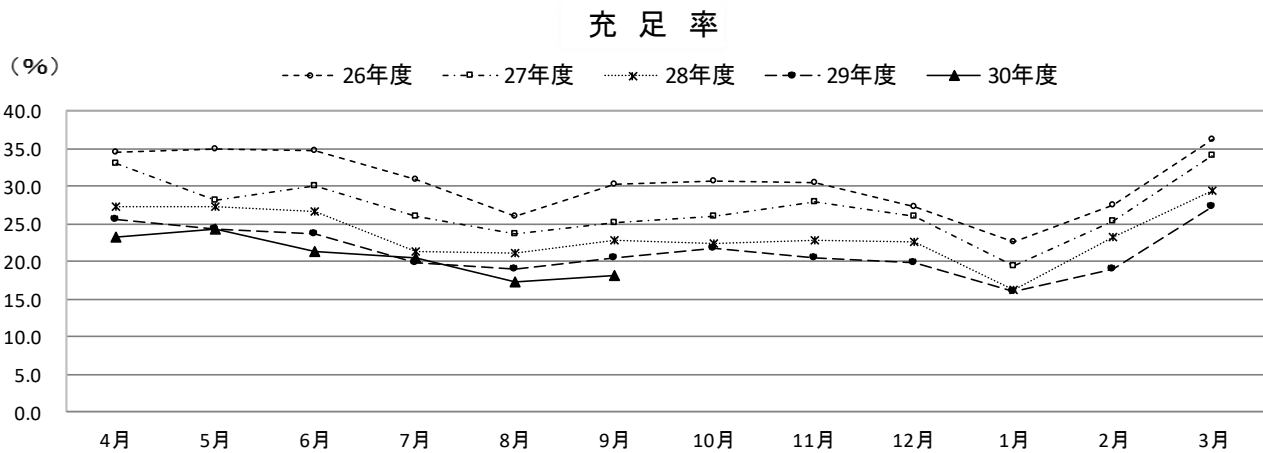
平成30年9月の有効求人倍率(季節調整値)は1.28倍で、前月及び前々月と同水準となった。就業地別有効求人倍率は1.39倍で、前月と同水準となった。



資料: 青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」、厚生労働省職業安定局雇用政策課「一般職業紹介状況」

(参考) 充足率(新規学卒者を除きパートタイムを含む)

平成30年9月の充足率は18.2%で、前年同月と比べ2.2ポイント下回った。



資料: 青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」※充足率=充足数/新規求人数

(2-3) 物価

平成30年9月の青森市消費者物価指数（平成27年=100）は、総合指数が102.1となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ1.7%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は102.2となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ1.4%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は101.7となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.2%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.1%の上昇となった内訳を寄与度でみると、被服及び履物（シャツ・セーター・下着類など）、食料（生鮮魚介など）などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ1.7%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道（他の光熱など）、食料（生鮮果物など）などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

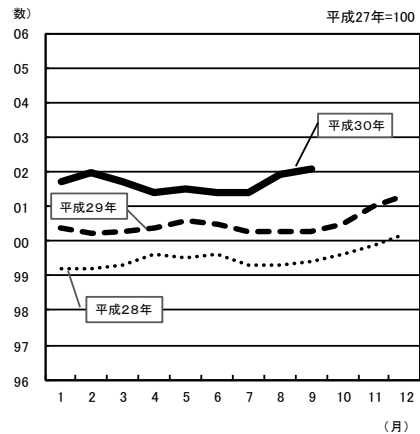


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

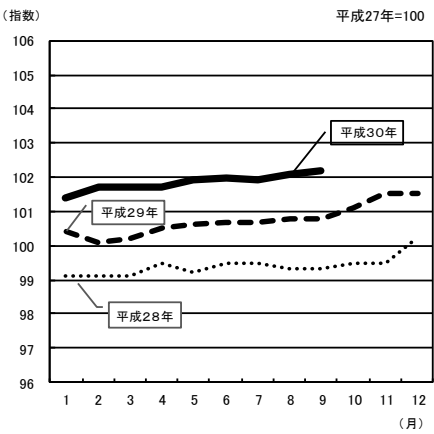
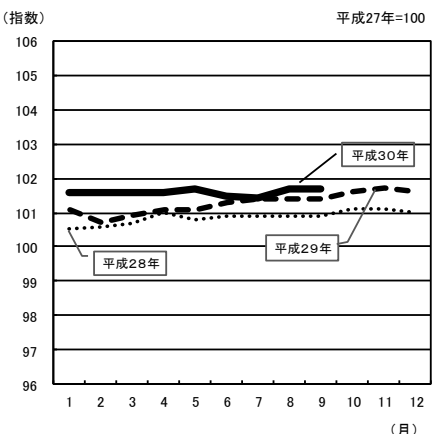


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成27年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	102.1	102.2	101.7	100.5	104.3	98.8	99.9	103.5	98.7	101.8	103.4	99.4	102.7	103.3	102.0
前月比(%)	0.1	0.1	0.0	▲ 0.1	0.4	1.1	0.0	0.4	▲ 0.8	4.7	▲ 0.1	▲ 0.9	0.0	▲ 0.3	0.3
寄与度	—	0.06	0.01	▲ 0.04	0.10	0.05	▲ 0.01	0.04	▲ 0.03	0.14	0.00	▲ 0.12	0.00	▲ 0.03	0.02
前年同月比(%)	1.7	1.4	0.2	▲ 0.2	2.2	8.5	0.0	7.0	▲ 0.4	0.8	1.0	2.6	0.2	▲ 0.5	0.3
寄与度	—	1.37	0.19	▲ 0.10	0.62	0.37	0.00	0.75	▲ 0.02	0.03	0.04	0.34	0.01	▲ 0.04	0.02

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

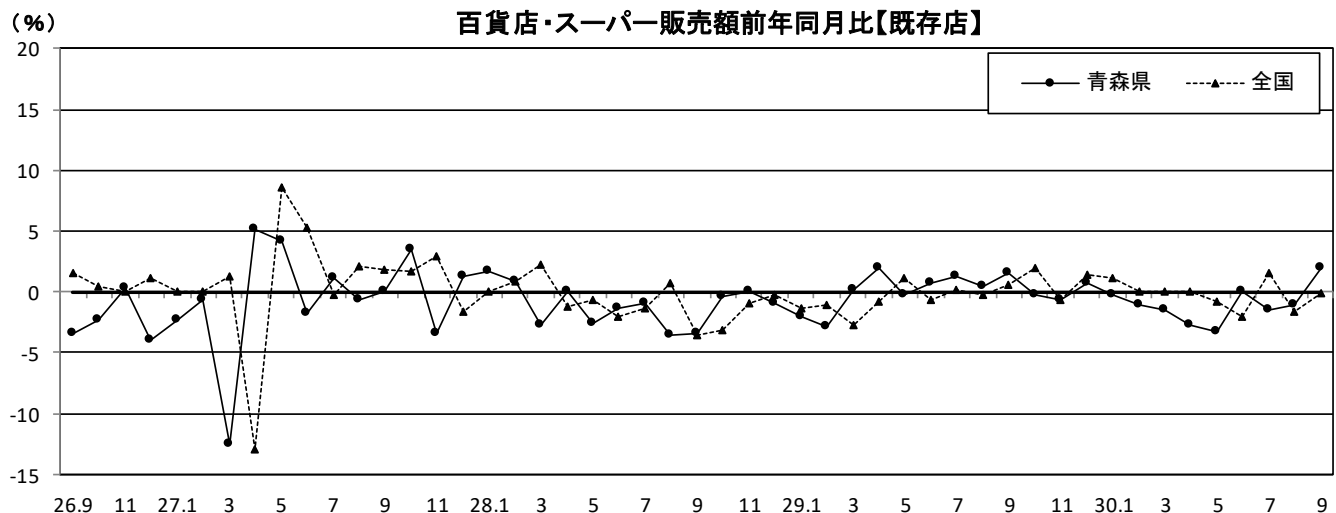
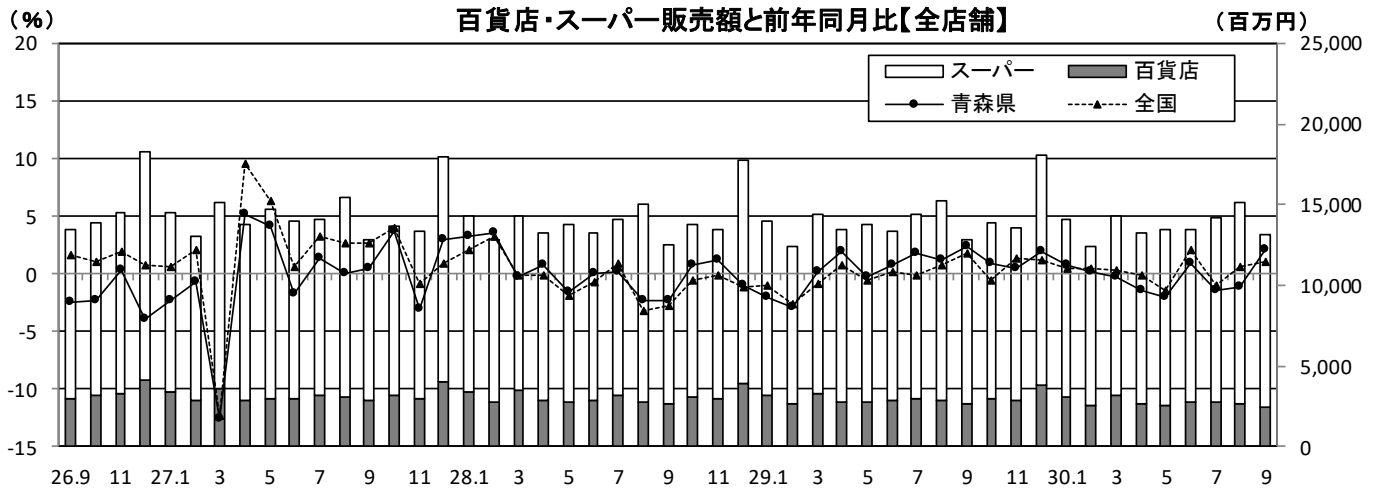
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

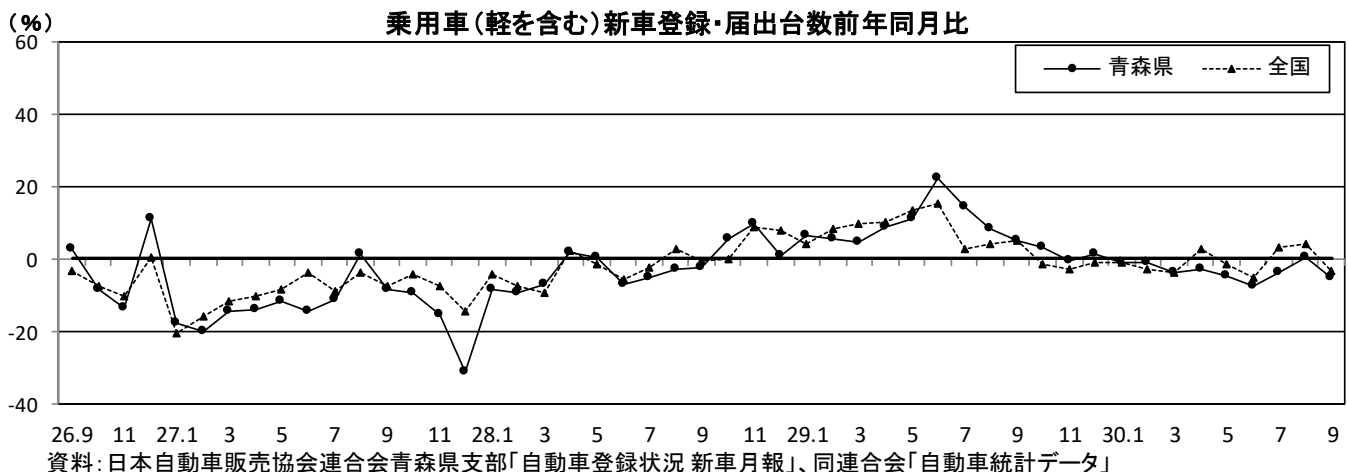
平成30年9月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが131億円で前年同月比2.0%増となり、3カ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでも前年同月比2.0%増となり、3カ月ぶりに前年同月を上回った。



* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

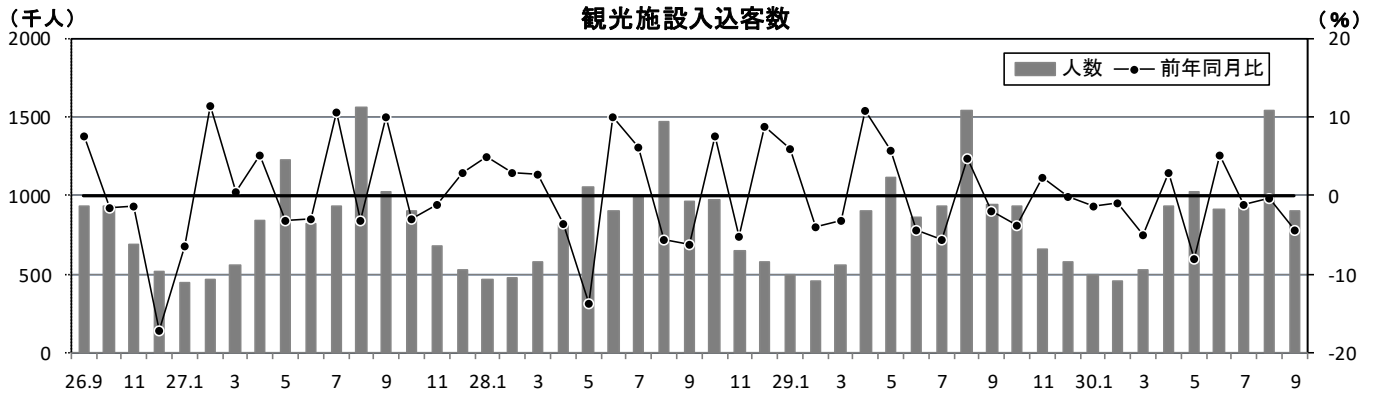
(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

平成30年9月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,128台で、前年同月比5.2%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。小型乗用車及び軽乗用車が減少したことによる。

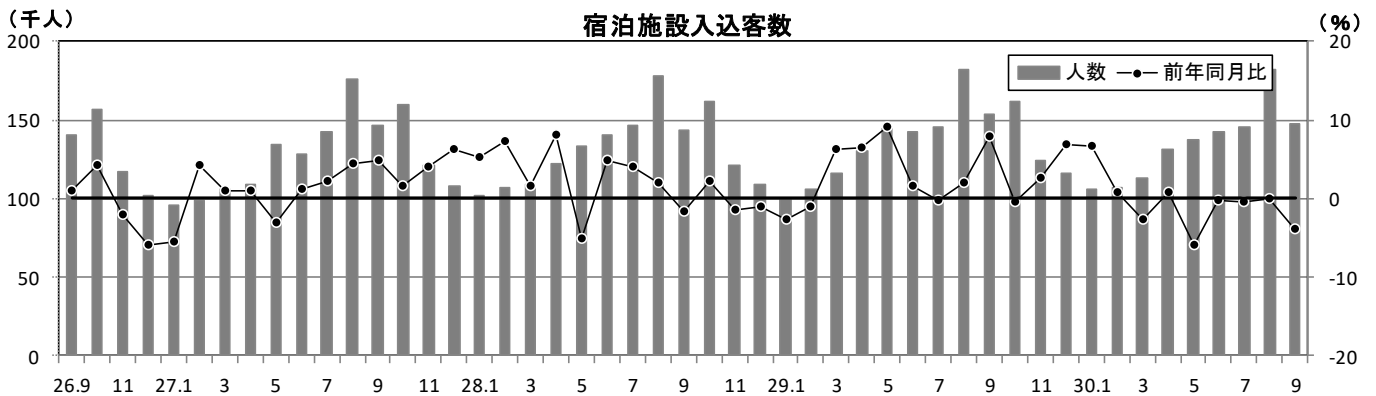


(2-4-3) 観光入込客数

平成30年9月の観光入込客数は、主な観光施設が899千人で前年同月比4.4%減となり、3カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は148千人で前年同月比3.9%減となり、5カ月連続で前年同月を下回った。観光施設は青森市、弘前市等の施設で減少し、宿泊施設は弘前市、八戸市等の施設で減少したことによる。



資料: 県観光企画課「月例観光統計」※観光施設34施設(H24年1月~H26年3月は35施設、H26年4月以降は34施設対比)

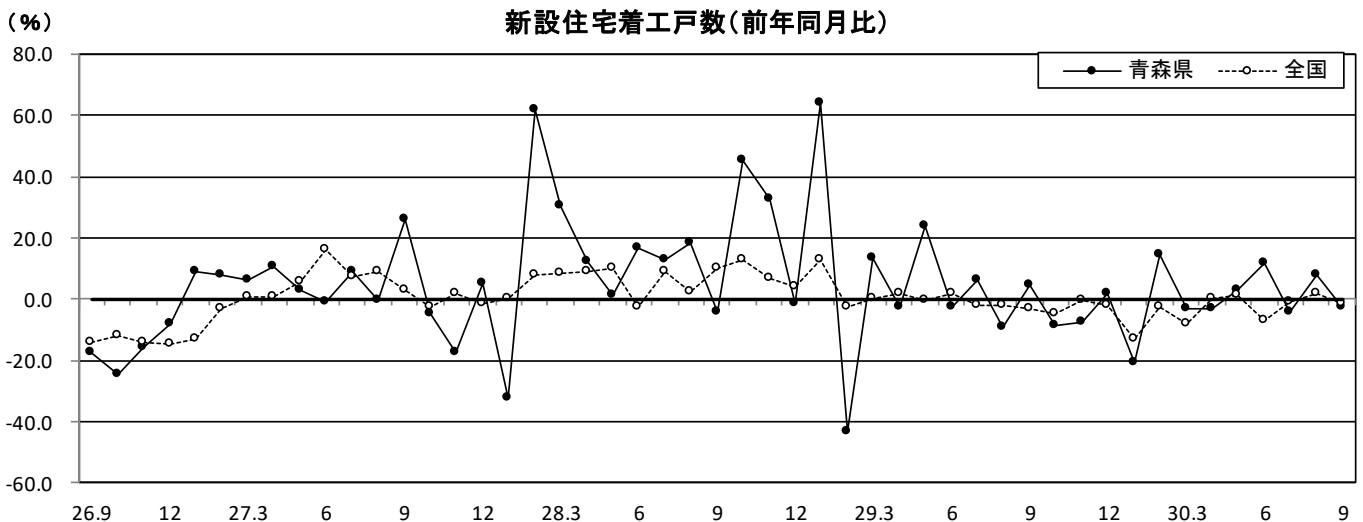


資料: 県観光企画課「月例観光統計」※宿泊施設56施設(H24年12月~H26年3月は57施設、H26年4~12月は56施設、H27年1~12月は55施設、H28年1月以降は56施設対比)

(2-5) 建設

(2-5-1) 住宅建設

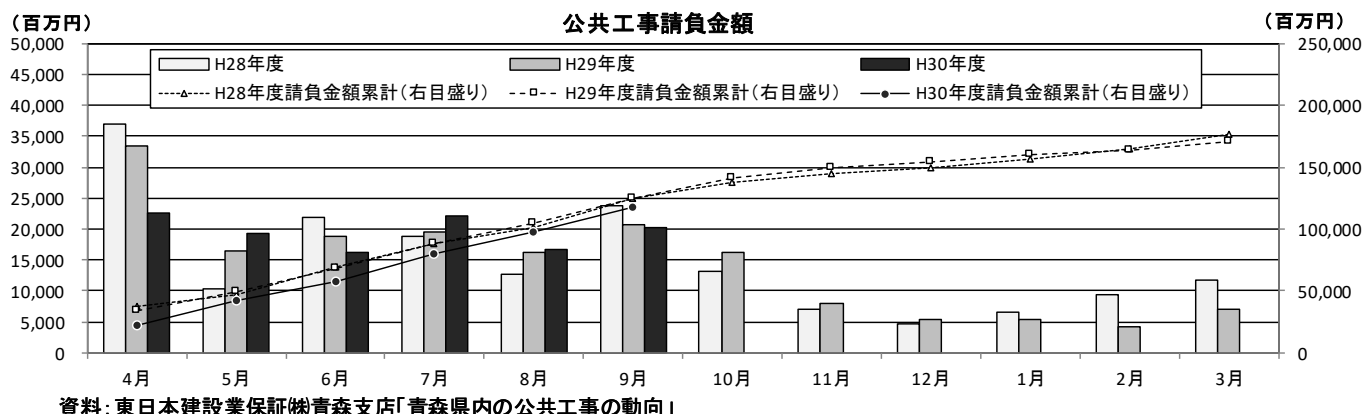
平成30年9月の新設住宅着工戸数は676戸で前年同月比2.6%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。持家、貸家等が減少したことによる。



資料: 県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建築着工統計調査報告」

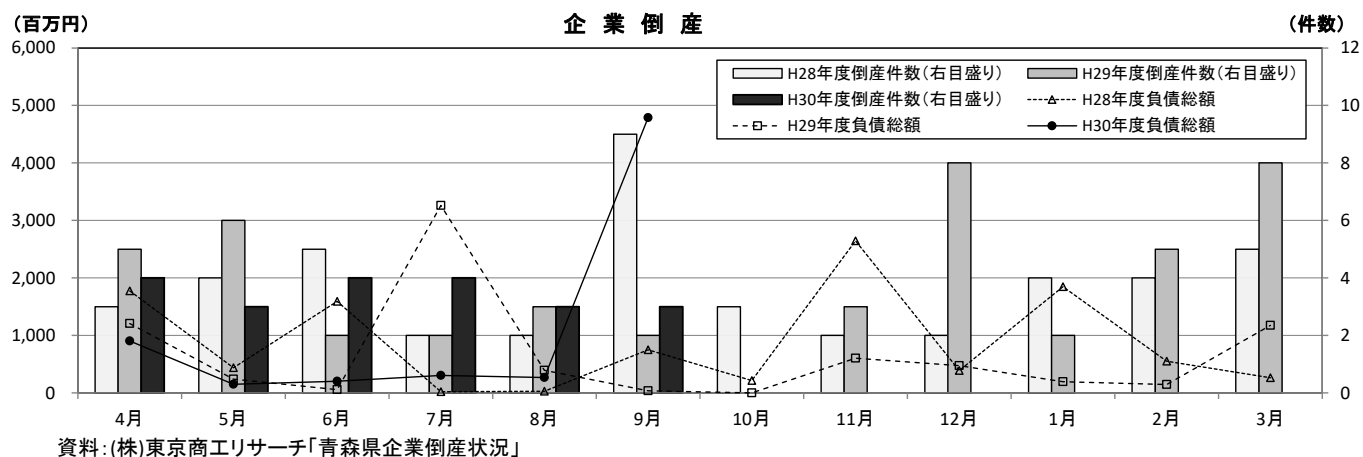
(2-5-2) 公共事業

平成30年9月の公共工事請負金額は202億3,900万円で前年同月比2.0%減となり、国、県などの減少により3カ月ぶりに前年同月を下回った。また、平成30年9月までの累計金額は1,172億9,300万円で前年同期比6.2%減となった。



(2-6) 企業倒産

平成30年9月の企業倒産は、件数は3件で前年同月比50.0%増となった。負債総額は47億8,800万円で前年同月比13580.0%増となった。負債総額の前年同月比は、10億円を超える大型倒産が2件発生したことから増加した。また、平成30年9月までの累計倒産件数は21件で前年同期比5.0%の増、負債総額は66億1,600万円で前年同期比27.5%の増となった。



(3) 青森県景気動向指数

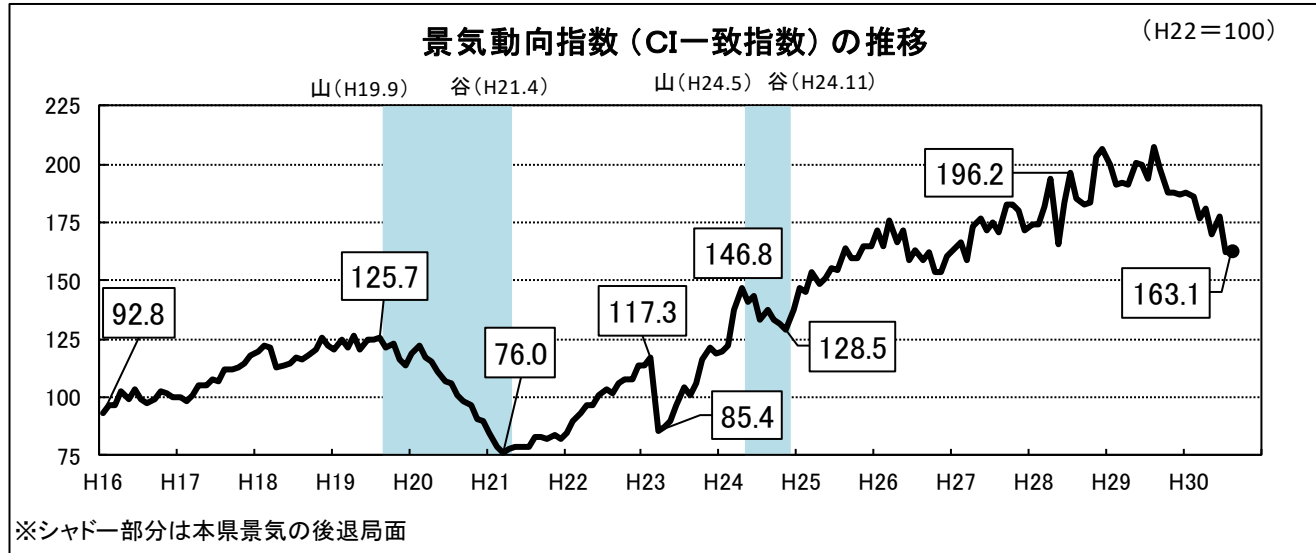
平成30年8月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 122.0、一致指数 163.1、遅行指数 122.6 となった。

先行指数は、前月を 0.3 ポイント上回り、5 カ月ぶりに上昇した。

一致指数は、前月を 1.0 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した。

遅行指数は、前月を 0.5 ポイント下回り、3 カ月ぶりに下降した。

8 月の一致指数は生産・雇用・消費関連の指数がプラスになったことから上昇した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
新規求人倍率（全数）	4.60	2カ月ぶり	企業倒産件数（逆サイクル）	-4.84	3カ月連続
建築着工床面積	2.82	2カ月連続	生産財生産指数	-2.10	2カ月ぶり
乗用車新車登録届出台数	1.10	2カ月連続	日経商品指数（42種）	-2.06	4カ月連続
新設住宅着工床面積	0.73	2カ月ぶり	中小企業景況DI	-0.01	2カ月ぶり
一致系列					
投資財生産指数	4.36	2カ月ぶり	輸入通関実績（八戸港）	-3.97	2カ月連続
所定外労働時間指数（全産業）	3.41	3カ月ぶり	有効求人倍率（全数）	-2.07	2カ月ぶり
百貨店・スーパー販売額（既存店）	0.22	2カ月ぶり	旅行取扱高	-0.96	2カ月連続
鉱工業生産指数	0.05	2カ月ぶり			
遅行系列					
青森市消費者物価指数（総合）	1.46	2カ月連続	家計消費支出（勤労者世帯：実質）	-1.50	2カ月連続
有効求職者数（全数）	0.77	2カ月ぶり	りんご消費地市場価格	-1.38	2カ月ぶり
県内金融機関貸出残高	0.36	4カ月ぶり	公共工事請負金額	-0.41	2カ月ぶり
常用雇用指数（全産業）	0.24	3カ月連続			

(参考) 青森県景気動向指数（D I）

先行指数	37.5%	(2カ月連続で50%を下回った)
一致指数	71.4%	(2カ月ぶりに50%を上回った)
遅行指数	85.7%	(4カ月連続で50%を上回った)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成30年10月期）

現状判断DIは、台風、地震等の自然災害による悪影響や、消費者の購買意欲低下への懸念等により、前期比3.5ポイント減少の44.3となった。

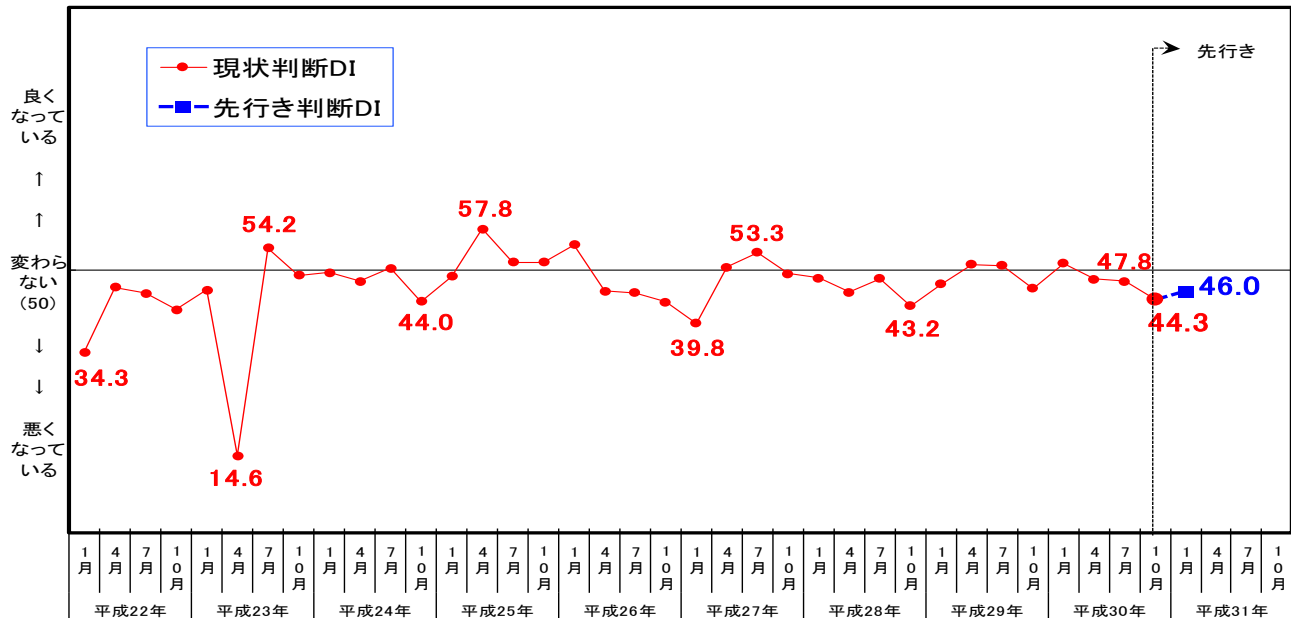
先行き判断DIは、秋のイベント等による来街者の増加や、消費税増税前の駆け込み需要への期待等により、現状判断DIと比べて1.7ポイント増加の46.0となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を3期連続で下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を2期ぶりで下回った。

（調査期間 平成30年10月1日～10月17日 回答率100%）

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気現状判断

動

前期調査と比べると、「良くなっている」が増減なし、「やや良くなっている」が5.0ポイント減少、「変わらない」が3.0ポイント減少、「やや悪くなっている」が7.0ポイント増加、「悪くなっている」が1.0ポイント増加により、全体では3.5ポイント減少の44.3と、景気の横ばいを示す50を3期連続で下回った。

向

判断理由では、インバウンド客や県外観光客の増加や、宿泊予約の好調などのプラス面がある一方で、台風、地震等の自然災害による悪影響や、消費者の購買意欲の低下などといったマイナス面をあげる声があった。

地区別では、前期調査と比べて、県南地区では増減なしだったが、他の3地区では減少した。DIは、全地区で50を下回った。

● 3カ月後の景気の先行き判断

動

前期調査と比べると、「良くなる」が増減なし、「やや良くなる」が11.0ポイント減少、「変わらない」が6.0ポイント増加、「やや悪くなる」が1.0ポイント増加、「悪くなる」が4.0ポイント増加により、全体では5.0ポイント減少の46.0と、景気の横ばいを示す50を2期ぶりに下回った。

向

判断理由では、秋のイベントや紅葉シーズンに伴う来街者の増加や、消費税増税前の駆け込み需要への期待等によるプラス面をあげる声があった一方で、原油価格高騰による家計への圧迫や、米中貿易問題による悪影響等を懸念する声があった。

地区別では、前期調査と比べて、全地区でポイントが減少し、特に東青地区及び津軽地区で5.8ポイント減少した。DIは、全地区で50を下回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

○	市役所駅前庁舎（旧アウガ）、新商工会議所会館効果が、オープン半年を経過しジワジワと出てきている。それと、宿泊の観光客、各団体の中心街区でのイベント効果が出ていると思う。（衣料専門店=東青）
○	たびたび利用する新幹線に乗り込んで感じることは、インバウンド効果が確実に東北地方にも及んでいることと、元気な高齢者マーケットが増加していること。（一般小売店=県南）
○	ビジネス・観光ともに、八戸への来訪者が増えているように感じる。（商店街=県南）
○	宴会は、ほぼ前年並みで推移しているものの、宿泊予約が好調で、満室の日も増えている。（都市型ホテル=下北）
□	8月～9月は、祭りとその余波で、景気は悪くはなかった。秋になり冷え込んできると、飲食業は毎年ですが、出控えるといった感じでしょうか。（一般飲食店=東青）
□	インバウンド（海外から）のお客が増えているが、景気が良くなっているという実感がない。（旅行代理店=東青）
□	全国的な景気判断によると、「緩やかに回復」という内容になっているが、青森県内の状況を見ると、停滞もしくは落ち込んでいるように感じる。（乗用車販売=津軽）
□	前回は、10月期には期待以上の仕事があるのではないかと考えていたが、残念ながら、そんなに変わらない。街に人がいないと思うときが多々ある。（タクシー=県南）
□	有効求人倍率の上昇が、即ち景気回復と言えるのか甚だ疑問。人口減少は、団塊の世代の離脱によるものと思われ、ペースは変わらないのでは。（ガソリンスタンド=県南）
□	住宅、自動車販売において、好調な話を聞かない。求人も、好況による人手不足を感じるまでには至っていないと思う。（新聞社求人広告=東青）
△	台風や地震などの自然災害が続き、予約のキャンセルが発生している。また、仕入れ価格の上昇が食品関係に見られ、収益を圧迫している。（都市型ホテル=東青）
△	災害が多発しており、今後への不安が増している時と見られ、購買意欲も必要最小限になってきている。（スーパー=津軽）
△	台風や地震などの自然災害による影響と、ガソリン価格の高騰もあり、不要不急の消費は控える傾向が強くなったと感じるため。（百貨店=県南）
△	自然災害による消費マインドの低下。直接の被災地ではなくても、情報取得の発達により、マイナス要素のある情報に触れる機会が拡大している。（衣料専門店=県南）
×	平日、出張のお客が減ってきている。接待の回数もだいぶ減っており、夜よりは、お昼にランチを食べに来ているように思います。（レストラン=県南）
×	客足が鈍い。財布のヒモが固い。お盆過ぎから、何かがおかしいような気がします。（一般小売店=下北）

○3カ月後の景気の先行き判断理由

◎	販促等、営業に力を入れる時期です。その結果、人の動きも活発になって行くと思います。また、周辺にビルもできるので、人の動きにも期待しています。（一般飲食店=東青）
○	秋はイベントも多く、紅葉シーズンでもあるため、来街者増となる可能性が高い。（商店街=津軽）
○	消費税増税前の住宅需要の増加など、駆け込み需要が始まると予測。（広告・デザイン=東青）
○	季節の変わり目で、次のシーズンへの期待と、季節商材の動きが多少出てきている。最盛期への上昇気分である。（飲料品製造=県南）
○	八戸市中心街の開発（マチニワ、八日町の複合ビル）が、ようやく動き出した。活性化に期待します。（経営コンサルタント=県南）
□	今とほぼ同じと思うのは、消費税増税による駆け込み感、今年になってから動きが顕著になるが、増幅するものの、伸びはないと考えるから。（住宅建設販売=津軽）
□	前年10月に少し上向きになり、実績も良かった。上期を通じて、競合他社と比較しても少しだけ良かったが、この後の状況は、少し厳しくなると考えられる。（家電量販店=県南）
□	回復する材料が見えにくい。台風、地震など天災情報により、守りに入っていくような気がする。（美容院=県南）
□	土建業では、多少公共事業が出てきて、良くなっているようですが、原油価格が上昇し、家計や経費を圧迫するものと思われます。（ガソリンスタンド=下北）
□	地域に恩恵をもたらすようなイベントや行政の施策に、消費を大きく動かすようなものが当面見当たらない。燃料価格も上昇し、さらに今後も上昇が続く可能性がある。（新聞社求人広告=東青）
△	原油の高騰で、家計を圧迫すると思われます。また、台風や地震の影響も考えられる。（スーパー=東青）
△	ガソリン、灯油等燃料の高騰に、これから冬期間を迎えての燃料費の負担が重なり、ただでさえ不景気なのに、消費にさらにブレーキがかかることが目に見えている。（タクシー=東青）
△	米中貿易摩擦の影響が、徐々に出そうである。一部の顧客や取引先は、注文取り消しや引き締め動き出している。（電気機械製造=県南）
×	台風の被害が出そう。農家の利益が上がらないと、景気は悪くなる。（コンビニ=津軽）
×	原油の値上がりのため、暖房用灯油の単価が100円近くにまで上昇し、生活費の負担が増える。（ガソリンスタンド=津軽）
×	消費増税がテレビ、新聞等で報じられ、まだ増税確定ではありませんが、生活防衛に向かいそうな気がします。（一般小売店=下北）

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」